

令和4年度東京都立江北高等学校学校経営計画報告

東京都立江北高等学校長

江本 敏 男

1. 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【学習指導】 質の高い授業を実践し、全ての生徒に進学に向けた学力の定着を図る。

目標と方策	自己評価
<p>① 主体的・対話的な深い学びを推進し、新しく求められる学力の向上を図る。</p> <p>② 生徒が表現する場を増やす授業を展開する。</p> <p>③ 自学自習の習慣や計画的な学習習慣を身に付けさせ、確実な学力の向上を図る。</p> <p>④ 習熟度別授業、少人数授業、特別進学クラス編成等による生徒の理解度に応じた授業を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を推進する。</p> <p>⑤ 模擬試験結果や生徒による授業評価の分析に基づく授業改善を推進する。</p> <p>⑥ 学力の定着を図るため、授業時数の確保を推進する。</p> <p>⑦ 英語に求められる4技能のバランス良い向上を図り、実践的コミュニケーション能力を高め、資格取得の充実を図る。</p> <p>⑧ オンライン授業やICTを活用した授業の効果的な実践を推進する。</p>	<p>① 教科主任会及び教科会を定期的開催し、組織的かつ計画的な学習指導を推進した。</p> <p>② ペアワーク、グループワークを活用し、自己表現や他者理解を深める授業を展開した。</p> <p>③ 自習室環境を整備したことで自習室の利用が定着し、学習習慣を身に付けさせた。</p> <p>④ 1・2学年での英語・数学の習熟度別授業、各学年2クラスの特別進学クラス編成、補習・講習の実施により、学習指導の充実を推進した。</p> <p>⑤ 模試分析会の定例化、ケース会議を実施し、生徒の課題に対応した学習指導の充実を図った。</p> <p>⑥ 行事等の実施について見直しを行い、授業時数を確保した。</p> <p>⑦ GTECの全員受験に加え、年3回実用英語検定の希望者受験を実施し、資格取得の充実を図った。</p> <p>⑧ オンライン授業、ハイブリッド型授業を実施し、生徒の学習機会の保障に努めた。</p>

【進路指導】 最後まであきらめさせない進路指導の充実を図る。

目標と方策	自己評価
<p>① 進学アドバンス校、進学指導推進校として、生徒の進路実現を図るキャリア教育の充実を進め、最後まであきらめない進路指導の徹底を図り、国公立大学や難関私立大学への進学実績の向上を図る。</p> <p>② 進路指導部と学年担任とが連携し、的確な進路情報の提供、生徒の学力分析、面談の実施、講演会や進路体験等の進路行事の充実を推進し、生徒の進路意識の喚起を図る。</p> <p>③ 生徒の客観的な学力分析や進学希望に基づき、長期休業日中の講習等の進学に向けた指導を組織的・計画的に行う。</p> <p>④ 模擬試験等のケース会議の拡充を図り、生徒個々の状況を丁寧に分析する。また、大学入学共通テスト後の出願指導の充実を図る。</p> <p>⑤ 国公立大学進路希望者への指導の充実を図る。</p>	<p>① 生徒の意識を高める3年間を見通した継続的な指導となるよう、模擬試験の設定、進路行事の実施時期の改善を図った。最後まであきらめない粘り強い進路指導を徹底し、国公立大学や難関私立大学への進学実績の向上を実現した。</p> <p>② 進路部が主導し、学年担任と連携して進路行事の実施や、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導により、キャリア教育の充実を図った。</p> <p>③ 全教員が3年生の夏期講習を担当し、組織的な進路指導を行った。</p> <p>④ 模擬試験分析会を行い、生徒の状況を把握した。大学入学共通テスト後は最後まで諦めさせない出願指導を行った。</p> <p>⑤ 国公立大学進路希望者への指導の充実を図り、一般クラスからも複数の合格者を輩出した。</p>

【生活指導】 規律ある学校生活の向上を図る。

目標と方策	自己評価
<p>① 規範意識を高め、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度を育成するとともに、自分で判断し決定して実行する自己指導能力の育成を図る。</p> <p>② 遅刻防止、授業開始時間や下校時間の遵守、授業規律の徹底、時と場に応じた身だしなみや所作など「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を徹底し、規律ある安全な生活の充実を図る。</p> <p>③ いじめ等の未然防止に向け、年間3回のいじめアンケートの充実を図り、組織的かつ迅速な対応ができるよう校内体制を強化する。</p>	<p>① 生徒会、運動・学芸委員会などの生徒組織を機能させ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。</p> <p>② 遅刻指導や身だしなみ指導の徹底を図り、規律ある学校生活の実現を目指し取り組んだ。</p> <p>③ SNS への書き込みや生徒間のトラブル等に対して保護者とも連携して組織的な対応を行った。</p>

【特別活動・部活動】 江北高生としての自覚と誇りを育成する。

目標と方策	自己評価
<p>① 部活動・委員会活動を活性化させ、自己を生かす能力を育成する。</p> <p>② 学校行事の学校生活の活性化と学校への帰属意識を一層高めるため、学校行事の充実を図る。</p> <p>③ 部活動の一層の活性化を図るとともに、学習と部活動との両立を目指し、学校生活の充実と生徒の可能性の伸長を図る。</p>	<p>① 運動・学芸委員会では、生徒が自ら考え、提案する場をつくることで、自主的な活動につながった。</p> <p>② 体育祭、文化祭などの学校行事について、制限を設けながらも通常に近い形で実施し、学校生活の充実を図った。</p> <p>③ 感染症防止対策を徹底しながら学習と部活動を両立する指導を行い、集団としての力を向上させた。</p>

【健康づくり】 体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成する。

目標と方策	自己評価
<p>① 生徒自らが健康を意識し、自己の健康管理に努めることを通して、進んで健康づくりを実践できる能力を育てる。</p> <p>② 計画的な体育の授業等を通じ、基礎体力の向上を図る。</p> <p>③ スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、日頃の生活状況やいじめアンケート等に基づく個々の生徒の状況把握に努め、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施する。</p> <p>④ 生徒と教員の関わりを深め、SOSを発信しやすい環境の充実を図る。</p>	<p>① 毎日の健康観察を行い、自己の健康管理を実践させた。</p> <p>② 充実した体育施設を生かし、感染防止対策を徹底しながらも運動量を確保した体育の授業を通じて基礎体力の向上を図った。</p> <p>③ 教育相談委員会による生徒のケース会議、校内研修会での生徒情報の共有を通して個々に応じたきめ細かい指導を実施した。</p> <p>④ 二者面談、三者面談により生徒の状況把握に努め、いじめ、体罰ゼロを継続した。</p>

【募集・広報活動】 地域に信頼され支えられる活気ある学校づくりを推進する。

目標と方策	自己評価
<p>① 学校説明会、見学会、授業公開、中学校訪問、塾訪問などを一層充実させ、本校で意欲的な活動を希望する生徒を積極的に募集する。</p> <p>② 充実した学校案内の作成、ホームページの更新、外部説明会への参加など、広報活動を積極的に進め、本校の諸活動への理解を広めていく。</p> <p>③ 本校の教育活動や成果を積極的に発信し、地域からの理解を深めていく。</p>	<p>① 学校説明会等を組織的に行うとともに、毎回誠実に説明することで、中学生とその保護者に学校を理解してもらうことができた。</p> <p>② 学校案内を6月には中学校に配布したり、部活動の様子等をホームページに掲載したりして情報の発信に努めた。</p> <p>③ 江北だよりを年10回発行し、保護者、地域に向けて学校の取組を発信した。また、江北だよりにより学校のホームページのQRコードを掲載する工夫をした。</p>

【学校経営・組織体制】 伝統の上に新しい江北高校を作り上げる組織の強化を図る。

目標と方策	自己評価
<p>① 全教職員が学校改革への意識を高め共有することで、改革を推進する。</p> <p>② 管理運営規程に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的な学校経営を推進し、校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。</p> <p>③ 校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底する。</p> <p>④ 経営企画室の学校経営参画を促進し、効率的かつ効果的な学校経営を行う。</p> <p>⑤ 会議や業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。</p>	<p>① 全教職員で学校のミッションを認識し、組織的に取り組む意識を醸成した。</p> <p>② 企画調整会議を中心とした学校経営を行い管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題に組織的に対応した。校内分掌内の協働体制と分掌間の連携を深め、校務運営の活性化を図った。</p> <p>③ 年間3回の服務事故研修や企画調整会議、職員会議で文書での服務事故防止の周知徹底をした。</p> <p>④ 経営企画室の学校経営参画を促進し、迅速かつ効率的な業務の遂行に取り組んだ。</p> <p>⑤ ② 担任と副担任の連携強化や会議の精選により業務の効率化を図った。</p>

(2) 重点目標への取組と自己評価

目標と方策	自己評価
<p>① 教科会において、外部模試等の分析を通して課題を把握し、授業や講習等の改善を図る。</p> <p>② 教科指導において、学習到達度(ねらい)を明確に示し、生徒に見通しをもたせることで、生徒の学習効果を高める。</p> <p>③ すべての活動において、生徒が考え、提示する機会を増やし、思考力、表現力等の向上を図る。</p> <p>④ 定期考査において、思考力、表現力に関する出題の改善を図る。</p> <p>⑤ 朝学習の着実な定着や手帳の活用を図り、自己管理能力の向上を図る。</p> <p>⑥ 英語外部検定試験等を活用し、CEFR A</p>	<p>① 模試分析、授業評価アンケートを通して課題や授業改善を行った。</p> <p>② 学習のねらいや振り返りを確実にを行い、生徒が見通しをもって授業に取り組めるよう授業改善を行った。</p> <p>③ 主体的・対話的な授業を大切にし、自己表現や他者理解を深められるようにした。</p> <p>④ 定期考査は各教科が工夫し、思考力、表現力に関する出題の改善を図った。</p> <p>⑤ 朝学習は定着した。さらに手帳の活用を図り、自己管理能力の向上を目指す。</p> <p>⑥ GTEC、実用英語検定の受験者増により、</p>

2.2 到達者率の向上を図る。

- ⑦ 長期休業中の講習等の構造化を図り、生徒にとって効果的な指導体制とする。
- ⑧ オンライン学習の実践を推進し、効果的な活用方法を構築する。
- ⑨ 予習・復習や課題等の改善や自習室利用の拡充により、家庭学習時間の増加を図り、自学自習の習慣の定着を推進する。
- ⑩ 進路指導部と各学年の連携を深め、3年間の進路指導計画の充実を図る。
- ⑪ 模擬試験結果に基づく分析会を充実させるとともに、3学年においては、個別のケース会議（2回）、出願ケース会議を実施し、個々の生徒の状況を共通理解し、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- ⑫ 授業開始時、終了時の「礼」、チャイム着席、チャイム授業開始の徹底を図り授業規律を確保する。
- ⑬ 交通ルールやマナーの指導の徹底を図り、生徒の安全を確保する。
- ⑭ 清掃活動を徹底し、自ら学ぶ場所を整える態度を養う。
- ⑮ 読書活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。
- ⑯ 都大会上位進出を目指し、部活動の活性化を図る。
- ⑰ 体力テスト結果に基づく分析を行い、体育の授業や部活動等を通じて体力向上を図る。
- ⑱ 学校案内、学校紹介ビデオ等外部発信媒体、ホームページの充実を図り、中学生・保護者にわかりやすい情報発信をする。
- ⑲ 学校案内、学校紹介ビデオ等外部発信媒体の充実を図り、本校の教育への理解を高める。
- ⑳ 新型コロナウイルス感染防止策の徹底を推進し、生徒の安心・安全を高め、円滑な教育活動を実践する。
- ㉑ 体罰や暴言のない指導、服務事故根絶の徹底を推進する。
- ㉒ 週に一度以上の定時退庁の実施等によりライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ㉓ 「総合的な探究の時間」の充実を図る。
- ㉔ 施設の有効活用を高める。

C E F R A2.2 到達者率が向上した。

- ⑦ オンライン学習の実践が定着しつつある。
- ⑧ ICTリーダー、教務部が中心となり、出席停止期間の学習を保障した。
- ⑨ 予習・復習の充実に向け、課題等の改善や反転授業を取り入れた授業が増えた。自習室は平日毎日の開設により利用率が高まった。
- ⑩ 進路部と各学年が連携を深め、3年間の系統的な進路指導計画の改善を図った。
- ⑪ 毎学期、模擬試験結果に基づく分析会を実施し、個々の生徒の状況を共通理解し、進路指導の改善を図った。3学年では出願ケース会議を実施し、きめ細かな受験指導により進学実績の向上を図った。
- ⑫ 授業開始時、終了時の「礼」、チャイム着席、チャイム授業開始が徹底され、授業規律が確保されている。
- ⑬ 交通ルールやマナーの指導は更なる工夫が必要であり、生徒の安全確保を目指す。
- ⑭ 日常的に清掃活動を実施し、自ら学ぶ場所の環境整備に努めるよう指導している。
- ⑮ 生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成するために読書活動の推進が必要である
- ⑯ 感染症防止に努めながら部活動を活性化させた。
- ⑰ 体育の授業や部活動の体力向上の取組みにより、体力テストは全国平均を上回った。
- ⑱ ホームページにスクールビューや部活動動画を掲載し、中学生・保護者に情報発信をした。
- ⑲ 学校案内を6月に完成させ、中学校等へ配布し、広報活動を活性化させた。
- ⑳ 基本的な感染症防止対策を徹底したことで学びを止めることなく円滑な教育活動を実践した。
- ㉑ 体罰や暴言のない指導、服務事故根絶の徹底を実践した。
- ㉒ ライフ・ワーク・バランスの推進に課題が残る。
- ㉓ 「総合的な探究の時間」の3年間の系統的な指導計画作成に取り組んでいる。
- ㉔ 定時制が使用していた食堂を自習室に変更するなど施設の有効活用をしている。

(3) 数値目標

数値目標	令和4年度	令和3年度
① 生徒の家庭学習時間 3年生：240分、2年生：150分、1年生：120分	3年生：240分 2年生：84分 1年生：112分	3年生：240分 2年生：90分 1年生：90分
② 大学入学共通テスト受験者率 90%	89%	88%
③ 大学入学共通テスト5教科受験 40人	31人	22人
④ 大学入学共通テスト80%得点者 10人	0人	0人
⑤ 国公立大学の現役合格者 20人	12人	12人
⑥ 難関私立大学（4校）現役合格者 10人	5人	5人
⑦ ホームページ更新回数 200回	344回	155回
⑧ 入学者選抜応募倍率 1.7倍	1.9倍	1.53倍
⑨ 生徒、保護者満足度 80%	90%	83%

2. 次年度以降の課題と対応策

課題	対応策
① 生徒一人1台端末の導入による授業における活用方法。	① 教科会や分掌会議において情報を共有し、日常的に活用できるようにする。
② 観点別評価による授業評価の在り方や成績管理。	② 教務部が中心となり、校内研修会を計画し全教職員が共通理解の下に取り組む。
③ 総合的な探究の時間の3年間を見通した年間指導計画の作成。	③ 教務部が中心となり、学年と連携し生徒の実態に合った指導計画を作成する。
④ 自主学习室の環境整備と生徒の利用率の一層の向上。	④ 机、椅子、赤本の計画的な購入とレイアウト。学生チューターの有効活用と利用ルールの改善。
⑤ 進路部と各学年の連携強化による、3年間の系統的な進路指導計画の充実。	⑤ 進路部を中心として進路ガイダンス、模試分析会、ケース会議等を組織的に行う。
⑥ 自転車における交通ルールやマナーの徹底による交通事故防止。	⑥ 生徒部が中心となり、集会やHRを通して全教職員で生徒の意識啓発に努める。
⑦ 感染症対策を講じた学校行事の実施における工夫。	⑦ 感染状況を鑑み、実施時期や実施形態を検討し、柔軟に対応ができるようにする。
⑧ 感染症対策を講じた学校説明会や見学会の工夫。	⑧ 感染状況を鑑み、実施時期や実施形態を検討し、柔軟に対応ができるようにする。
⑨ 生徒の思考力・判断力・表現力の育成に向けた読書活動の推進。	⑨ 学校図書館専門員と連携して生徒の図書館利用率の向上を図る。
⑩ 学校評価アンケートの回収率の向上と評価における教育活動の改善。	⑩ Microsoft Forms による回答の周知徹底とアンケート結果における分析と改善。